質の高い学力を育成する

学習指導案ハンドブック

平成 24 年 3 月

京都府総合教育センター

目　　次

はじめに　1

１　学習指導案の３つの役割　2

２　学習指導案様式例　4
(1)〔基本型〕様式例１　5
(2)〔研究発表会型〕様式例２　7
(3)〔本時中心型〕様式例３　9
参考資料　各教科の評価規準の観点名一覧表　１１

３　学習指導案の各項目の解説…〔基本型〕に即して　１２
1 対象　2 日時　3 場所　１２
4 単元（題材）名・教材名　１２
5 単元について　１３
6 単元目標　１４
7 単元の評価規準　１４
8 単元指導計画　１５
9 本時の目標　１６
10 本時の展開　１６

４　目的・場に応じた学習指導案の具体例　２０
(1)〔研究発表会型〕…小学校国語科　２０
(2)〔本時中心型〕…小学校算数科　２５

５　学習指導案作成の手順と留意点　２７

６　学習指導案を今後に生かすために　３０

７　その他の参考様式例　３３
(1)　特別支援学校学習指導案　３３
(2)　道徳学習指導案　３５

はじめに

学習指導案は、授業を構想する際の設計図であり、授業を行う際には進行表となり、実施後には、授業や学習指導の記録、次への構想の準備となるものです。また、学習指導案には、単元目標や、指導上の留意点、評価の観点など、学習指導を進める上で考えるべき重要な内容が含まれています。必要な内容を備え、授業や研究に役立つ機能的な学習指導案を作成することは、充実した授業に直結することであり、児童生徒に質の高い学力を身に付けさせる上でとても重要であると言えます。

このような学習指導案には、活用する目的や場によって様々な様式があります。そこで、本書では第２章で、目的や場に応じた学習指導案の具体例を３つ例示しました。その上で、学習指導案の各項目が何のために設定され、どのような内容を記述するのか、共通理解を図っておきたい内容を〔基本型〕に即して第３章で解説しています。また、第４章では、具体的な事例として、様式例に沿った学習指導案を掲載しています。さらに、第５章では、学習指導案を作成する手順や方法、留意点を示しています。

本書は、各学校において学習指導案を作成する際の手引きとしての役割を果たすことを一つのねらいとして作成しました。各学校においては、学習指導案の基本的な内容や様式についての共通理解を図った上で、児童生徒の課題や自校の研究課題に合わせた様式や内容を検討し、機能的で創意ある学習指導案を作成されることを期待しています。

また、本書は、校内研修や研究の資料として活用されることをもう一つのねらいとしています。学習指導案について考えることは、単元の学習指導の見通しや１時間の授業の在り方について考えることでもあります。「単元目標をどのように設定するのか。」「評価規準とは何か。」「指導上の留意点には、何を記述すればよいのか。」など、学習指導の根幹に関わる内容について協議したり研修したりすることは、質の高い学力をめざした授業構想と学習指導のために欠かせないことと言えます。各学校等において、研究授業の一環として学習指導案を検討される際などに、活用されることを願っています。

１　学習指導案の３つの役割

学習指導・授業の設計図

学習指導案を作成することは、「どのような力を身に付けさせるために」、「どのような学習指導を行うのか」、内容や手順を具体的に考えていくことに他なりません。指導者は、年間指導計画に基づいた系統性や単元全体の目的、対象となる児童生徒の実態や課題を踏まえて、どのような内容をどのような学習活動を通して指導していくのか、おおまかに構想した上で、毎時間の流れと内容を考え、必要な準備をしていきます。指導者は、学習指導案を作成することを通して、その内容や指導方法を事前に考えたり工夫したりしながら練りあげていくことができます。つまり、学習指導案は、その時間のねらい（児童生徒に身に付けさせたい資質や能力）を達成するための設計図であると言えます。

次に、こうして作成された学習指導案は、実際の学習指導・授業を進めていく際の進行表として働きます。指導者は、学習指導案を基に授業を行うことで、ねらいどおりの学習指導を、計画的に、効果的に進めていくことができます。

このような機能を担った学習指導案は、まず、よく練られた内容にすることが求められます。さらに、実際の学習指導の進行表となるためには、抽象的な理念を語ったものではなく、指導内容と児童生徒の学習する姿がありありと思い描けるような具体性が求められます。

児童生徒に質の高い学力を身に付けさせる学習指導を実現するためには、よく練られた、実現可能な具体的なプランが示されている学習指導案を作成することが重要なことであると言えます。

授業研究の資料

公開授業では、授業のねらいや工夫点など、授業参観の観点を明確にしておくことが重要です。また、児童生徒の実態や、自校の研究主題等、あらかじめ知っておいてもらいたいこともあります。このようなとき、学習指導案は、共通理解を図るための資料としての重要な役割を果たします。

授業研究の資料ですから、指導者として何を伝えたいのか、どのようなことをいっしょに考えたいのか、自分の考えや思いを明確に打ち出すことが重要です。ただし、共通理解のための資料でもあることから、授業研究に参加する人の実践経験や立場等を考慮して、相手の立場に立った言葉遣いや表現に努めることが大切です。実りの多い授業研究とするためには、ポイントを絞った内容を分かりやすい言葉で簡潔に表現し、専門用語や自校独自の言葉を使う場合は、その語の意味を解説したり、定義付けたりするなど、正確に理解できる配慮が必要です。

授業実践・研究の記録

授業を終えた後には、児童生徒の様子や自分自身の指示や発問などの指導を振り返って成果や課題を明らかにすることが必要です。その際、児童生徒の反応や計画の変更点、反省点など様々な書き込みがされた学習指導案は、授業記録としての役割を果たします。事後研究会では、この記録を基に授業を振り返って、成果や課題、改善点などを出し合い、協議を深めていきます。また、児童生徒の発言記録やノートのコピー、写真や録画映像等の資料を加え、研究協議での意見や自分自身の考察などを付け加えることで、充実した研究資料となります。自らの授業力を高める上で、授業を終えた後の学習指導案を活用することは、有効な手立てであり、次への構想の準備にもなります。

「質の高い学力」とは・・・

改正された学校教育法においては、「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」とされています。

これを受けて京都府では、学力の重要な要素として「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の３つを挙げ、これらが統合された学力を「質の高い学力」としています。

２　学習指導案様式例

この章では、目的や場に応じた学習指導案の様式として、以下の３例を示しています。

〔基本型〕様式例１は、京都府総合教育センターが初任者・新規採用者研修のために作成している「学校の教育力の向上を目指してー教職の手引きー」（平成 24 年度版）に掲載している様式です。学習指導案の作成を通して、学習指導にかかわる基本的な知識や方法などを学ぶことを主な目的としています。そのため、学習指導案に備えるべき項目・内容を省略せずに構成しています。

〔研究発表会型〕様式例２は、自校で取り組んできた研究成果を、公開授業を通して発表したり、実践発表を行ったりするための学習指導案です。研究内容や成果を校外の多くの方々に提案することを主なねらいとしています。そのため、研究主題の解説や授業後の考察を付け加えたり、省略可能な項目を削ったりするなど、研究や授業のねらいを明確にし、焦点化・重点化した構成となるよう工夫しています。

〔本時中心型〕様式例３は、校内研修会の協議資料として、1 時間の授業の具体的な指導方法等を中心に提案することを主なねらいとしています。単元全体に関わる内容をできる限り簡略化し、1 時間の授業の目標・構成・指導方法の工夫点を明らかにしています。また、参観・研究の観点として、研究課題や授業改善のポイントを示しています。

各学校では、授業の目的や公開する対象者に合わせて様式例を選択し、項目構成や記述内容等を参考にして学習指導案を作成してください。その際、児童生徒の実態や研究課題に応じて、項目や内容を付け加えるなど、一層の工夫を加えることが望まれます。

なお、〔基本型〕については、第３章で各項目の内容や留意点を詳しく解説しています。学習指導案についての理解を深める資料として活用してください。

また、〔研究発表会型〕〔本時中心型〕については、第４章に小学校国語科、算数科の学習指導案を掲載しています。各様式に即した学習指導案の具体例として参考にしてください。

さらに、その他の参考様式として、第７章に「特別支援学校学習指導案」と「道徳学習指導案」を掲載しました。併せて参照してください。

様式例１

（1）〔基本型〕

京都府総合教育センターが初任者･新規採用者研修のために作成している「学校の教育力の向上を目指して－教職の手引き－」平成 24 年度版に掲載している様式です。

〇〇科　学習指導案
学校名
指導教員名　　＊印鑑省略可
指導者名（＊T1・・・）
（＊T2、T3）※複数指導の場合

1　対象　第〇学年〇組　　〇〇名

2　日時　平成〇年〇月〇日　〇曜日　第〇校時　　〇：〇～〇：〇

3　場所　〇〇教室、〇〇場、〇〇実習室等

4　単元（題材）名・教材名

教科によっては、「単元名」を「題材名」とする。

5　単元について（簡潔に記述する。児童生徒の実態についても、単元の目標に関連させ、本単元での学習課題が明確になるようにする。）

6　単元目標（単元全体の目標を一文程度で簡潔に記述する。）

単元、小単元、題材等、教科によって学習内容のまとまりの捉え方が異なります。そのまとまりを踏まえて目標を設定します。

7　単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
文末は「～しようとしている。」等	文末は「～している。」等	文末は「～している。」等	文末は「～している。」等

〇　評価規準の各観点名は、「小学校児童指導要録」「中学校生徒指導要録」に示された各教科の表現で記入する。上の欄では、省略した表現で示しているが、実際には教科によって具体化する。
　例：「国語への関心・意欲・態度」等　＊P11「各教科の評価規準の観点名一覧表」を参照
〇　児童生徒がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。
〇　年間計画において、単元ごとの観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を整理し、必要以上に評価機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要することがないように留意する。＊参考資料「評価規準の作成のための参考資料」（平成 22 年 11 月国立教育政策所・教育課程研究センター）

8　単元指導計画（単元目標を達成するための指導計画を示す。）

次	時	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価の観点）
一	1（本時）	〇指導の過程や指導する内容が明確になるよう、指導者の立場から体言止めで簡潔に記述する。 〔例〕「学習課題の設定」	〇具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述する。	〇指導者がどのようなねらいでどのような指導を行うのかを記述する。 〇個に応じた指導についても、児童生徒の実態を想定して手立てを書いておく。	〇単元の評価規準を具体化し、評価規準と評価の観点を指導過程に即して記述する。 〇単元の評価規準と同様に各校の年間計画に基づいて記述する。

単元指導計画表の時間の区切り（横線）については、各教科の特性に応じて、「次」ではなく、「時」ごとにまとめることも可能です。

9　本時の目標（この時間でどのような力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのかを簡潔に記述する。その際、単元目標との関連を明確にして、単元指導計画の該当する時間との整合性にも留意する。）

10　本時の展開（○／○）

（本時の目標を達成するための授業展開計画を示す。児童生徒の学習活動と、指導内容の双方が具体的にイメージできるように記述する。）

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等	評価 (評価の観点) 〈評価方法〉
		○具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述する。				
	めあて（本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示する。）					
導入○分 展開○分 まとめ○分	過程には時間配分も記入し、見通しを持って指導します。 指導内容の記入例 「前時の振り返り」 「めあての確認」 「まとめ」 「振り返り」等	児童生徒が主体的に学習活動に向かうためには、指導者の説明を一方的に聞くだけでなく、多様な学習集団を活用した指導形態を取り入れることが必要です。	一斉 個別 ペア グループ等の指導形態を記述する。	○指導者がどのようなねらいでどのような指導を行うのか、指導のポイントを記述する。 ○本時の目標を達成するための具体的な手段や方法、指導の工夫点などが具体的に想起できるように記述する。 ○個に応じた指導について、児童生徒の実態を想定し、手立てを記述する。 ○指導形態等の工夫や少人数授業の利点を生かした指導の工夫について記述する。 ○複数指導の場合は、それぞれの教員の役割や指導内容の分担がはっきりと分かるように区分して記述する。 ○保健衛生、事故防止、安全管理、準備・片付け等にも触れる。	使用する教材や教具を記述する。	○本時の目標に照らし、学習活動に即して評価規準を確認し、評価の観点と評価方法を具体的に記述する。単元指導計画の評価規準との整合性に留意する。 十分満足できると判断される状況 ○評価規準に照らして学習の実現状況の程度から、その高まりや深まりをもっていると判断される状況を想定して記述する。 努力を要する状況への手立て ○その時間の学習活動において評価規準を達成することができそうにない児童生徒に対して指導者がその時間内にどのような手立てを講じるのかを記述する。

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒への配慮事項は、この欄に記入します。

学習指導案を作成する段階で、教材や教具を記述しておくことで、計画的に準備をしたり、授業当日に必要なものを確実に揃えたりすることができます。

様式例２

⑵〔研究発表会型〕

各項目のくわしい説明については、様式例１〔基本型〕を参照してください。第４章に、この様式に則した具体例を掲載しています。併せて御覧ください。

自校で取り組んできた研究成果を、公開授業を通して発表したり、実践発表を行ったりするための学習指導案です。研究内容や成果を校外の多くの方々に提案することを主なねらいとしています。

〇〇科　学習指導案

学校名

指導者名（＊T1・・・）　※印鑑省略可

（＊T2、T3）※複数指導の場合

１　対象　第〇学年〇組　　〇〇名

２　日時　平成〇年〇月〇日　〇曜日　第〇校時　　〇：〇～〇：〇

３　場所　〇〇教室、〇〇場、〇〇実習室等

４　単元（題材）名・教材名

各項目については、「言語活動の充実について」「小中連携について」等、学校独自の項目を加えることも可能です。

５　単元について

（以下のゴシック体は見出しの例）

研究主題・仮説

年間計画の系統性と指導の見通し

本単元で身に付けたい力と学習活動

学習内容や教材の特性と留意点

研究主題や仮説に関連した内容を中心に、単元構成の意図や工夫点を記述します。意図を明確に伝えるために、小見出しを付けて内容ごとのまとまりで書くなどの工夫をします。左に挙げた小見出しの例を参考にしてください。

６　単元目標

７　単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
文末は「～しようとしている。」等	文末は「～している。」等	文末は「～している。」等	文末は「～している。」等

8　単元指導計画

単元指導計画は２つの例を掲載しています。

例１　（基本型と同じ様式）

次	時	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価の観点）
一	1 ～ 2				
二	3 ～ 6				
三	7 ～ 8				

単元指導計画表の時間の区切り（横線）については、各教科の特性に応じて、「次」ではなく、「時」ごとにまとめることも可能です。

評価規準は、同じ学習活動等のまとまりごとに示すことも可能です。

例２　（基本型から指導内容や指導上の留意点を省略した様式）

次	時	学習活動	評価規準 （評価の観点）
一	1		

9　本時の目標

10　本時の展開（○／○）

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価 （評価の観点） 〈評価方法〉
導入○分 展開○分				

めあて（本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示する。）

授業を通した提案内容が分かりやすくなるように、本時の目標と照らし合わせてポイントとなる「学習活動」は**ゴシック表記**にするなどの工夫を加えます。

様式２では、児童生徒の学習活動と指導上の留意点を中心に記述し、「指導形態」「教材・教具」欄を省略しています。

11　考察

授業後の活用例：「研究仮説」について、事後研究会での意見等を踏まえて授業者としての考察をまとめておき、次への構想の準備とします。授業記録や教材教具、児童生徒の成果物、写真、録画映像等をまとめて保管し、次年度の指導にも生かします。

様式例３

(3)　〔本時中心型〕

１時間の授業の目標・構成・指導方法の工夫点を示し、参観・研究の観点として、研究課題や授業改善のポイントを明確にしています。

校内研修会の協議資料として、１時間の授業の具体的な指導方法等を中心に提案することを主なねらいとしています。

○○科学習指導案

第○学年○組　平成○年○月○日　第○校時（□年□組教室）　指導者：○○　○○

各項目のくわしい内容は、第３章の解説を参照してください。

必要最小限の項目のみをまとめて記述しています。

単元（題材）の概要

「単元について」を省略し、単元に関わることを概要としてまとめています。

単元（題材）名・教材名		
目　　標		
評価規準	関心・意欲・態度	○
	思考・判断・表現	○
	技能	○
	知識・理解	○
単元指導計画	＜全○時間＞ 第一次（○時間）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・。 第二次（○時間）　・・・・・・・・・・・。（本時第○時） 第三次（○時間）　・・・・・・・・・・・・・・。	

主な学習活動を簡潔に記入します。本時がどの時間であるか分かるようにします。

評価規準の観点名は、各教科の表現で記入

本時の学習指導について

1　本時の研究課題

本時の研究授業で、どのような指導の在り方や方法を提案しようとしているのか、簡潔にまとめる。

2　本時の目標

3　学習指導のポイント

○　本時の授業の中で、とくに工夫した点や改善を図っている点を、箇条書きで記述する。

○　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

4　参観・研究のポイント

◇　研究課題を基に、本時の参観・研究のポイントを記述する。

「過程」「指導形態」「教材・教具」欄を省略しています。

5　本時の展開（○／○）

指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価 （評価の観点） 〈評価方法〉
	○具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述する。	○指導者がどのようなねらいで、どのような指導を行うのか、指導のポイントを記述する。	
めあて（本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示する。）			
指導の過程や内容が明確になるように、指導者の立場から体言止めで簡潔に記述する。 〔例〕 「学習課題の設定」「書き方の説明」等	**○**研究授業を通して提案したい内容が分かりやすいように、ポイントとなる学習活動をゴシック表記する。	○個に応じた指導についても、児童生徒の実態を想定して手立てを書いておく。	○評価規準を記述する。 （　　） 〈　　〉 十分満足できると判断される状況 ○ 努力を要する状況への手立て ○

〔学習活動の記入例〕
「自分が書いた手順や方法についての説明をノートに書く」等

〔指導上の留意点の記入例〕
「児童の発言を板書で整理し、拡大図のかき方の理解を確実なものにする」等

評価については、様式例１を参照してください。

板書計画・ワークシート等

提案内容や参観のポイントに応じて、掲載する資料を選択して掲載します。

6　考察

授業研究を終えた後、「考察」欄を付け加えて、授業の振り返りや事後研究会での意見などを踏まえて、指導者としての考察をまとめておきます。

参考資料

各教科の評価規準の観点名一覧表

小学校	中学校
国語	国語
国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能
社会	社会
社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現 観察・資料活用の技能 社会的事象についての知識・理解	社会的事象への関心・意欲・態度 社会的な思考・判断・表現 資料活用の技能 社会的事象についての知識・理解
算数	数学
算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方 数量や図形についての技能 数量や図形についての知識・理解	数学への関心・意欲・態度 数学的な見方や考え方 数学的な技能 数量や図形などについての知識・理解
理科	理科
自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象についての知識・理解	自然事象への関心・意欲・態度 科学的な思考・表現 観察・実験の技能 自然事象についての知識・理解
生活	音楽
生活への関心・意欲・態度 活動や体験についての思考・表現 身近な環境や自分についての気付き	音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意工夫 音楽表現の技能 鑑賞の能力
音楽	美術
音楽への関心・意欲・態度 音楽表現の創意工夫 音楽表現の技能 鑑賞の能力	美術への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力
図画工作	保健体育
造形への関心・意欲・態度 発想や構想の能力 創造的な技能 鑑賞の能力	運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 運動や健康・安全についての知識・理解
家庭	技術・家庭
家庭生活への関心・意欲・態度 生活を創意工夫する能力 生活の技能 家庭生活についての知識・理解	生活や技術への関心・意欲・態度 生活を工夫し創造する能力 生活の技能 生活や技術についての知識・理解
体育	外国語
運動や健康・安全への関心・意欲・態度 運動や健康・安全についての思考・判断 運動の技能 健康・安全についての知識・理解	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 外国語表現の能力 外国語理解の能力 言語や文化についての知識・理解

＊この一覧表は、次の文部科学省通知及び京都府教育委員会通知に示された参考様式に基づいて作成しています。
「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知）」（平成22年５月11日　22文科初第１号）・「小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部の児童生徒指導要録の改善等について(通知）」（平成22年8月6日　２教学第981号）

〔基本型〕様式例１
に即して

３　学習指導案の各項目の解説

番号は、〔基本型〕様式例１
に対応しています。

１ 対象・２ 日時・３ 場所

研究授業の実施概要として、学校名、指導者氏名、対象とする学年・学級・児童生徒数や、実施日時、場所等を明記します。校内の研究授業の場合には学校名を省くなど、公開する対象によって、省略可能な項目もあります。

４ 単元（題材）名・教材名

単元名とは、いくつかの教材や活動で構成された一連の学習活動を指す名称です。音楽、図画工作、家庭、美術、技術・家庭等においては、「題材」と言います。（以下、「(題材)」を省略）

教材名とは、単元に含まれる教材の題名などです。単元・教材名は、自校の年間指導計画に基づいて記入します。一般的には、教科書の文言を使って記入する場合が多いようですが、自校の年間指導計画に位置付けられていれば、独自の単元名を設定することも可能です。

なお、教材名は、教科によって示されない場合があります。

単元名を設定する際には、「教材名」と混同しないようにすることが重要です。特に国語科では、文章教材の作品名をそのまま単元名としている例（「読んで考えたことを話し合おう」とするところを「ごんぎつね」としている）が見受けられますので、留意する必要があります。なお、道徳では単元名を主題名、教材名を資料名としています。（＊Ｐ35「道徳学習指導案」参照）いずれにしても、学習指導案のタイトルとも言えるものです。学習活動のねらいや内容が一目で分かるように明記することが重要です。

５ 単元について

この単元で、どのような力を身に付けさせるのか、そのためにどのような学習活動を行うのか、単元全体のねらいや学習活動の概要を説明します。主に次のような内容で構成します。

① これまで児童生徒は、どのような学習をして、どのような力を身に付けてきたのか。（年間指導計画の系統性）

② 本単元（当該の学年、指導時期）では、どのような力を身に付けさせようとしているのか。

③ 本単元でねらいとする力を身に付けさせるために、どのような学習活動をどのような流れで行うのか。

④ 学習内容や教材の特性に関わって、特に留意すべきことは何か。

⑤ 本単元で身に付けさせた力は、次へどう発展させていくのか。（指導の見通し）

単元のねらいや内容を考える際には、学習指導要領の該当箇所を確認し、それを根拠に具体化していくことが必要です。また、学校の研究課題などに基づいた研究授業の場合は、上の内容に関連させて、研究の主題や仮説などに触れておくことも必要です。

児童生徒の実態は、この項目に含めて記述します。その際には、学級や担当の児童生徒の一般的な様子（明るい・素直・仲がよいなど）ではなく、本単元のねらいや学習内容から見た現状や課題を具体的に記述します。例えば、「自分の考えを書く力を育てたい」ことがねらいならば、「板書はメモできるが自分の考えが書けない。」や、「聞き取ったことは正しく記録できるので、傍線を引くなどして要点を整理できるようにしたい。」などのように記述すると、児童生徒の実態と、それに基づいた指導者としてのねらいも明確に伝えることができます。ただし、児童生徒の課題を記述する際には、個人情報保護の観点から、個人を特定できるような記述は避ける必要があります。特に、特別な教育的支援を必要とする児童生徒について記述するときや、個人が特定されやすい少人数の学級では、十分な配慮が求められます。さらに、ホームページ等で学習指導案や研究資料を公開する際には、不特定多数の人々の目に触れることを想定して、十分な注意が必要です。

なお、児童生徒の実態については、「児童（生徒）について」として、「単元について」とは別項目として記述することもできます。

６ 単元目標

この単元で、どのような力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのか、できる限り簡潔に記述します。これまでは、評価の観点ごとに記述することもありましたが、目標と評価規準との関係を整理する上から、単元全体の目標を一文程度で簡潔に記述する方法が多くなってきています。

〔例〕「自分の調べたいことを明らかにしながら段落相互の関係に気を付けて読んだり、調べたことを基に、理由や事例を挙げて調査報告文を書いたりする。」 ＊「言語活動の充実に関する指導事例集」（平成22年12月　文部科学省）参考に一部修正

なお、文末は、教科・領域の特性に応じて「～する。」「～できる。」「～できるようにする。」など、いくつかの形式が考えられます。いずれの場合でも、一つの学習指導案の中で混在しないよう、国立教育政策研究所の資料等を参照して、学校として統一した表現にすることが必要です。

７ 単元の評価規準

児童生徒がどのような学習状況であれば、単元目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を、年間指導計画に基づいて、観点ごとに簡潔に記述します。評価規準について、国立教育政策研究所では、次のように説明しています。

「目標に準拠した評価を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。そして、学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっているかが具体的に想定されている必要がある。このような状況を具体的に示したものが評価規準であり、各学校において設定するものである。」 ＊「評価方法の工夫改善のための参考資料（小学校）」（平成 23 年 3 月　国立教育政策研究所・教育課程研究センター）「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料中学校編」（平成23年7月　国立教育政策研究所・教育課程研究センター）

評価規準は、単元目標と一体のものとしてとらえ、児童生徒の学習活動が容易に想定できるよう、できる限り具体的に記述することが大切です。各教科・領域の学習指導要領の「２内容」に記載されている指導事項を基に設定します。基にした指導事項を(ｱ)や(ｶ)等の記号で併せて記載しておくと、学習指導要領との関連を明確にすることができます。

文末は、児童生徒の学習活動の状況を示すことから、「～しようとしている。」（関心・意欲・態度）や「～している。」とします。

観点の名称は、「小学校児童指導要録」「中学校生徒指導要録」に示された各教科の表現で記入します。（「各教科の評価規準の観点名一覧表」を後掲しています。）

８　単元指導計画

単元目標を達成するために、どのような学習指導を展開するのか、単元全体の計画を簡潔に示します。

次・時

単元の学習活動全体を、数時間ごとにひとまとまりのものとした区切りを「次」と呼びます。（教科によって「小単元」と呼んだり、区切りだけを付けて名称を付けないこともあります。）例えば、単元全体の導入に当たる部分を「第一次」、学習活動の中心的な部分となる部分を「第二次」、学習成果を発表・交流したりする部分を「第三次」と設定するなどが考えられます。

このようにして「次」を設定することで、指導者は、学習活動全体を見通した視点で指導に当たることができます。また、児童生徒にとっては、学習活動の節目を意識することで、この時間に学習していることが次にどのようにつながるのかといった見通しを持つことができます。

指導内容

指導の過程や指導する内容が明確になるように、指導者の立場から体言止めで簡潔に書きます。単元指導計画では、単元全体の流れが分かるように、どのような学習活動を行わせるのかに中心をおいて記述します。基本的には「時」ごとに記述しますが、２時間続きの授業や、同じ内容の繰り返しの場合には、まとまりごとに記述することもあります。例としては、「学習課題の把握」「あらすじの把握」「場面ごとの人物像のまとめ」「自分の考えの交流」等が考えられます。

学習活動

具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述します。具体的とは、どのようなことを、どのようにして行うのかということですから、「人物の気持ちを読み取る。」や「乗法の答えの求め方を理解する。」など、「単元目標」や「本時の目標」をそのまま当てはめたような表現はできるだけ避けて、「会話の内容を基に人物の気持ちを想像し、吹き出しに書き込む。」や「乗法の答えは、累加で求められることを理解し、図で表す。」など、児童生徒が実際に行う学習活動に即した表現にすることが大切です。

指導上の留意点

指導者がどのようなねらいでどのような指導を行うのか、指導のポイントを記述します。単元指導計画では、単元全体の学習活動の流れに即して、「指導内容」、「学習活動」及び「評価」と関連させて、その時間の最も大切となる指導を中心に記述します。その時間の目標を達成するための手段や指導の工夫点などが具体的に想起できるような表現を心がけることが大切です。

評価規準（評価の観点）

この欄には、単元全体の評価規準を、指導過程に即して毎「時」ごとに具体化して記述します。児童生徒がどのような学習状況であれば、その時間の目標が達成できたと判断するのか、その拠り所となる規準を（評価の観点）と併せて記述します。また、まとまりとして同じ学習活動が複数時間にわたって続く場合は、そのまとまりで一つの評価規準を設定することも可能です。

観点の名称は、「小学校児童指導要録」「中学校生徒指導要録」に示された文言によりますが、省略した表現をする場合は、枠外に注記を付しておくことが必要です。

なお、「本時の展開」の「評価」の欄には、「評価規準」に加えて「十分満足できると判断される状況」「努力を要する状況への手立て」を記述しますが、「単元指導計画」では、単元全体の流れを示すことに重点を置くため、評価規準と（評価の観点）のみを記述しています。

９ 本時の目標

研究授業として実施する１時間の授業を「本時」と呼びます。この時間で、どのような力をどのような学習活動を通して身に付けさせるのか、この時間の目標を設定します。くわしくは、前述の「単元の目標」を参照してください。

また、「単元指導計画」の該当する時間との整合性にも留意する必要があります。「単元指導計画」で時間ごとに設定した「指導内容」と「学習活動」を基にして、できるだけ一つの文にまとめるように簡潔に記述します。

10 本時の展開

本時１時間の詳細な学習指導案です。児童生徒の学習活動と、指導者の指導の双方が具体的にイメージできるように、流れに沿って記述します。このとき、「本時の目標」（どのような学力を身に付けさせるのか）と、「学習活動」（どのような学習活動を行うのか）と、「評価」（どのような学習状況であれば目標が達成できたとするのか）の３つが相互に関連し、一貫性のあるものとして設定されていることが重要です。そのことによって、指導者にとっては学習指導の計画として、また、参観する人にとっては学習指導の解説として、有効に機能する学習指導案となります。

なお、「指導内容」「学習活動」「指導上の留意点」の欄は、単元指導計画で説明した内容を参照してください。

過程

１時間の授業をいくつかの分節に区切ったものです。一般的には、「導入」「展開」「まとめ」の３つに分けることが多いようです。「学習課題をつかむ」「調べる」「考

えをまとめる」など、学校独自の区切り方や文言を設定する場合もあります。

過程を設定する際には、児童生徒の立場から、授業全体を見通して実際の学習活動の流れを想定することが大切です。また、それに即して、時間の目途を設定しておくことも重要です。指導者、学習者ともに、１時間の授業の流れをはっきりと知っておくことが、単元の学習計画と同様に、児童生徒自身が学習活動の流れを自覚的にとらえ、見通しを持って主体的に活動する力を育てることにつながるものと考えます。一般的な型に縛られず、学習活動の目的や内容に即して、学習活動の過程を柔軟に創意工夫することが大切です。

めあて

小学校では「めあて」、中学校では「ねらい」とすることが多いようです。いずれも、児童生徒が主体的に学ぶために、本時の目標を達成するための学習課題を児童生徒向けの言葉で提示します。例えば、本時の目標が「説明したい仕事内容を、相手に具体的に伝えるために写真を選び、写真と文章の構成を考える」とすれば、児童生徒に提示する「めあて」は、「リーフレットの写真を選び、写真と取材メモを合わせて伝えたいことを決めよう」というようになります。

「めあて」の提示は、授業の導入部分で単元の学習計画を確かめたり、前時の学習を振り返ったりするなどの学習活動を通して行います。

指導形態

〔基本型〕様式例１では、授業の中で、どのような学習集団を設定して指導を進めるのか、その形態を学習活動ごとに記述します。指導者の指示や説明によって、学級の児童生徒全員が同じ学習活動を同時に行うことを「一斉指導」と呼びます。また、他には個々の児童生徒が各自で取り組む「個別」、数人のグループで活動する「グループ」、隣の席の人と行う「ペア」などの形態があります。

児童生徒が主体的に学習活動に向かうためには、指導者の説明を一方的に聞くだけでなく、一人一人が主体的に活動できる場面を用意することが重要です。そのためには、グループやペア、個別など、多様な学習集団を活用した指導形態を取り入れることが必要です。ただし、多様な学習集団が、そのまま主体的な学習活動に直結するわけではありません。グループやペアなど、その集団で何をどのような目標で行うのか、児童生徒が具体的に理解できるようにするとともに、主体的に活動できる十分な時間を設定することや、児童生徒が指導者に頼らずに自力で活動を進める知識や技能を身に付けていることなどが必要です。

指導上の留意点

指導者がどのようなねらいでどのような指導を行うのか、１時間の授業の指導のポイントを記述します。その時間の目標を達成するための手段や方法、指導の工夫点などが具体的に想起できるような表現を心がけることが大切です。また、指導形態の工夫や少人数授業の利点を生かした指導の工夫についても、「指導形態」の欄と合わせてここで記述します。

なお、個に応じた指導についても、児童生徒の実態を想定して具体的な手立てを記述しておきます。また、通常の学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒への授業中の配慮事項は、この欄に記入します。

また、保健衛生、事故防止、安全管理、準備・片付け等についても、必要なことをこの欄に記述します。

教材・教具等

〔基本型〕様式例１では、授業で使う教材や教具を記述します。教科書以外の資料、ワークプリントや学習カード、実験器具など、指導者があらかじめ準備しておく必要があるものを含みます。学習指導案を作成する段階で、教材や教具を記述しておくことで、計画的に準備をしたり、授業当日に必要なものを確実に揃えたりすることができます。

評価（評価の観点）〈評価方法〉

この欄には、「評価規準」（評価の観点）に加えて〈評価方法〉も併せて記述します。その際、単元指導計画の評価規準との整合性に留意することが必要です。評価規準と（評価の観点）は、「７　単元の評価規準」を参照してください。

なお、１時間の授業の中には、様々な学習内容が含まれていますが、その全てを評価することには無理があります。実際に学級全員に目を向けて一人一人の学習を把握するためには、その時間の様々な学習活動の中から、重点を置いて指導する内容や、確実に評価を行うことができる観点をできる限り焦点化して設定することが大切です。

〈評価方法〉は、児童生徒のどの学習活動を対象として、どのような方法で評価するのかを記述します。ノート、ワークシート、学習カード、文章など学習成果が客観的に残る資料を基に評価する場合と、発言の内容、話し合いの様子などをその場で観察する方法を採る場合もあります。観察の場合は、学級全員の学習状況が把握できるように、授業のどの場面で、何をポイントとして観察するのかを明確にしておくことが必要です。

また、この欄には「十分満足できると判断される状況」「努力を要する状況への手立て」も記述します。

「十分満足できると判断される状況」は、評価規準に照らして学習の実現状況の程度から、その高まりや深まりをもっていると判断される状況を想定して記述します。その際、「より深く」や「よりくわしく」などの抽象的な表現は避けて、「評価規準」に何が加われば、高まりや深まりをもっている状況なのかを具体的に記述するようにします。例えば、「伝えたい内容をメモに書き、それを基にして必要な材料を適切に選んでいる。」という評価規準に対して、「伝えたい内容をメモに書き、それを基にして全体の構成や表現効果も考えながら必要な材料を適切に選んでいる。」などが考えられます。

「努力を要する状況への手立て」は、その時間の学習活動において評価規準を達成するこ

とができそうにない児童生徒に対して、指導者がその時間内にどのような手立てを講じるのかを記述します。学習課題について、どのようなつまずきが予想されるかを具体的に想定し、それに応じた適切な手立てを用意しておくことが必要です。そのためには、「ノートの見直しをさせる。」などのように抽象的な記述にとどまらず、「ノートを見直して前時に解いた問題を再度思い出させる。」など、児童生徒の実際の学習活動につながる「手立て」にすることが、指導と評価の一体化を図る上で重要であると言えます。

なお、「十分満足できると判断される状況」を「A」、「努力を要する状況への手立て」を「C」などのように記号で表記することもありますが、その際には、欄外に注記を付すなどして、記号が表す意味に誤解が生じないよう配慮することが求められます。

＜参考図書・資料＞

□　評価規準の作成のための参考資料（小学校）
　平成 22 年 11 月　国立教育政策研究所　教育課程研究センター

□　評価方法等の工夫改善のための参考資料
　平成 23 年 3 月　国立教育政策研究所　教育課程研究センター

□　評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料　中学校編
　平成 23 年 7 月　国立教育政策研究所　教育課程研究センター

□　言語活動の充実に関する指導事例集　～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～　【小学校版】
　平成 22 年 11 月　文部科学省

□　言語活動の充実に関する指導事例集　～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～　【中学校版】
　平成 23 年 5 月　文部科学省

＊上記の資料は、文部科学省、国立教育政策研究所のホームページからダウンロードすることができます。

４　目的・場に応じた学習指導案の具体例

(1)　〔研究発表会型〕…小学校国語科学習指導案の具体例

国語科学習指導案

学校名　○○立○○小学校
指導者名　　○○　○○

１　対象　　第４学年１組　　○○名

２　日時　　平成 23 年 11 月○日（水曜日）５校時（13：30～14：15）

３　場所　　第４学年１組　教室

４　単元・教材名
単元名「写真と文章で説明しよう」
教材名「仕事リーフレット」を作ろう（＊教科書会社名、学年等を記載）

５　単元について

研究主題・仮説

本校では「書くこと」を通して自分の考えを明らかにし、伝え合う力を高めることを目指している。研究仮説は次の２点である。①「書くこと」の学習過程を明確にすれば児童は見通しを持ち、自ら学ぶことができるようになるのではないか。②各領域の指導事項や言語活動を関連付けながら系統的に指導をすれば、書く能力の定着を図ることができるのではないか。これらの仮説を基に単元を構想している。

年間指導計画の系統性と指導の見通し

第４学年では、説明的な文章を書く学習を年間３単元計画している。５月「調べたことを報告する文章を書こう」では、調べたデータを基に報告する文章を書き、取材と報告書の構成について重点的に学んでいる。そこでは、報告書の構成を知り、全員が報告書を仕上げることができた。だが、調べたいことを決めて取材を行う力の定着は不十分であったため、本単元で定着を図る。

また、「読むこと」領域との関連も図る。10 月「説明のしかたについて考えよう」では、写真と文章の対応関係や対比等の表現の工夫について学んでいる。説明する文章を記述する学習過程において、その学びを生かすよう指導する。

本単元で身に付けた写真と文章を対応させて説明する文章を書く力は、２月「調べて、まとめて、読み合おう」において、自分でことわざを調べ、要約や引用をしながら文章を書く学習につなげる。

本単元で身に付けたい力と学習活動

本単元では、説明的な文章を書くことの課題設定や取材、構成、記述、推敲、交流という学習過程において、特に、課題設定や取材、構成、記述を重点的に取り上げて指導する。その際、言語活動例「ウ　収集した資料を効果的に使い、説明する文章を書くこと。」を通して指導する。自分が興味を持って調べた仕事について、リーフレットにまとめて同学年の友達に伝えるという目的に応じ、写真を効果的に使って仕事を説明する力を付けること

を目指す。自分が特に何を伝えたいのかという着眼点を明確にすることで、同じ仕事を取材した場合でも書き手によって写真や文章に違いが表れるようにする。文章を記述する際には、モデルとなる教材文の表現の工夫を、自分の表現に生かすことができるようにする。アップとルーズの写真を対比して説明をするため、前単元の教材「アップとルーズで伝える」で学んだ説明の仕方やその特徴についても振り返らせる。

単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動は、「写真と文章で説明するリーフレットを作る」ことである。リーフレットとは、様々な様式の文章と図表やグラフ等を組み合わせて作られているものである。その中に書かれている文章は、広告、宣伝、案内、紹介だけでなく、説明、解説、感想、体験報告等の多様な様式が含まれている。また、まとまった文章だけでなく、箇条書きや吹き出し、注記等の様々な書き方が使われている。図表等についても、写真、絵、チャート図等多様な種類が多様な組み合わせで使われている。このように、リーフレットは多様であるが、今回は写真と文章で説明するリーフレットを作る。この言語活動を通して、アップとルーズで撮った写真の対比に着目した構成を生かして説明する力を付けることを目指す。

学習内容や教材の特性と留意点

リーフレットは、２つ折りと４つ折りから伝えたい内容に応じて選択できるように設定する。教科書に掲載されているリーフレットをモデルとして、アップとルーズの２種類の写真で説明をする２つ折りを基本形とするが、仕事の連続性や時間による仕事内容の変化を伝えたい場合には、４枚の連続写真を使って説明する４つ折りも選択できるようにする。裏表紙の構成はインタビューの言葉や感想を入れるか、白紙にするかは選択できるようにする。インタビューの言葉を入れる場合は引用の仕方を押さえ、感想を入れる場合は教科書巻末の語彙集を活用させる。自分の最も伝えたいことと照らし合わせて構成を主体的に選択させ、学習活動への意欲喚起と、思考力・判断力の育成につなげる。

児童は、第３学年「私たちの学校行事」において、インタビューの方法について学んでいるが、実際に体験したインタビューの回数はまだ２，３回である。教科書に掲載されているインタビューの手引きを基に既習事項を想起することで、既習・未習を意識してインタビューの経験を積ませたい。句読点の打ち方については、第３学年の「気になる記号」における学習を想起させ、記述や推敲の際に復習をすることで一層の定着を目指す。

6　単元目標

◎　関心のあることから書くことを決めて調べたことを基に、写真を選んだり、文章と写真を対応させて説明する文章を書いたりする。

7　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○進んで取材の準備を行い、調べたことを相手に伝えるために、写真を効果的に使って説明しようとしている。	○説明する目的に応じて、題材を選んでいる。（ア） ○説明したい内容を相手に伝えるために写真を選び、構成を考えている。（イ） ○写真と文章を対応させて説明する文章を書いている。（ウ） ○書いた文章を読み合い、観点に沿って感想や意見を述べている。（カ）	○句読点を適切に打ち、必要な箇所は改行して書いている。（イ(ｴ)）

8　単元指導計画（全７時間）

次	時	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価の観点）
一	1 〜 2	学習課題の設定	○新聞の全体を見ながら、写真と文章の対応関係と写真の効果について考える。 ○多様な形式のリーフレットを見比べてその特徴を知り、作成するリーフレットの形式を確認する。	○写真を効果的に使っている新聞を提示し、写真と文章を対応させて書くことへの興味を喚起したり、リーフレットの実物を見せて、完成のイメージを持たせたりする。	○仕事の内容を伝えるという目的に応じて題材を選んでいる。 （書）
		学習計画の確認	○教材文を読み、「写真と文章で仕事を説明するリーフレットを作ろう」という学習課題を設定する。	○既習教材を振り返り、写真と文章の対応関係について想起させる。	
		各自の課題設定	○教材文に掲載されているモデルの作品を見ながら、リーフレット作成までの見通しを持つ。 ○学習課題を具体化し、一人一人が題材を決定する。	○学習活動と時間配分を考えて学習計画表を作成させる。 ○校区内で見聞きした仕事を出し合わせ、その中から自分の題材を選択させる。	
二	3	取材準備	○教材文を読み、取材の準備物とインタビューのルールを確認する。	○第３学年で既習のインタビューの手引きを基に気を付けることを確認させる。	○どんなリーフレットを作りたいかを考えながら、必要な材料を集める準備を行い、写真の効果的な使い方について考えようとしている。 （関・意・態）
		構成	○２種類のリーフレットを比べて読んだり、既習教材である説明的な文章を振り返ったりしながら、構成と表現の工夫を確認し、取材のためのメモを作る。 〈確認事項〉 ・アップとルーズの特徴の違い（全体と部分） ・事実の記述（写真の解説） ・表現の工夫（たとえ、並列、対比、数値等） ・写真と文章の対応（この写真は〜）	○リーフレットは、２つ折り、４つ折りから形式を選べること、必ずアップとルーズの写真を組み合わせることを伝える。 ○既習の説明的な文章で学んだ上手な説明の仕方を自分の書く文章に生かすことを確認する。	
	課外	取材	インタビューの期間を１〜２週間確保しておく。その間に各自取材を行い、授業は次の単元「声に出して楽しもう」を進める。学校内の仕事を取材する場合は、休み時間に行う。		
	4 （本時）	構成	○取材メモの中から、伝えたい内容を絞り、写真とリーフレットの形式を選ぶ。裏表紙にインタビューの言葉や感想を入れるか、白紙にするかも選ぶ。	○取材メモに傍線を引きながら伝える内容を絞らせる。 ○アップとルーズの写真を組み合わせて選んでいるかをペアで確かめさせる。	○説明したい内容に合わせてアップとルーズの写真を選び、構成を考えている。 （書）
	5 〜 6	記述	○写真に写っている仕事を説明する文章を、写真１枚あたり100〜150字程度で下書きする。４枚の連続写真を使う場合は、写真１枚あたり50字程度で説明をする。	○写真１枚あたり１段落とすること、字数の目安を伝え、教材文や既習教材から学んだ表現の工夫を使って書くよう助言する。	○写真と文章を対応させて、伝えたい内容を説明する文章を書いている。 （書）

		推敲 記述	○伝えたい仕事の内容が入っているか、写真と文章は対応しているか等について推敲する。 ○レイアウトを考えて写真や文章を貼り、リーフレットを仕上げる。	○取材メモの傍線と文章の照合、写真と文章の対応、文末表現等を観点として与えて推敲をさせる。ペアでも助言し合わせる。 ○２つ折りと4つ折りのモデルを準備しておき、必要に応じて各自で確認させる。	○句読点を適切に打ち、写真ごとに改行している。 （言）
三	7	交流 振り返り	○仕上げたリーフレットを読み、感想や意見を述べ合う。 ○学習活動を振り返り、学習のまとめをする。	○次の観点でリーフレットをグループで読み合わせる。 〈感想の観点〉 ・仕事の大変さやすばらしさ ・初めて知って驚いたこと 〈意見の観点〉 ・アップとルーズの写真選択 ・写真に対応する文章 ・表現の工夫 ○単元全体の学習活動を振り返らせて学んだことをまとめさせる。	○書いたリーフレットを読み合い、観点に沿って感想や意見を述べている。 （書）

備考：国語への関心・意欲・態度 →（関・意・態） 書く能力→（書） 言語についての知識・理解・技能→（言）

9　本時の目標

○　説明したい仕事内容を、相手に具体的に伝えるために写真を選び、写真と文章の構成を考える。

10　本時の展開（4/7）

過程	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価 （評価の観点） 〈評価方法〉
導入 7分	既習事項とめあての確認	○取材期間前に決めた学習課題と学習計画を想起し、本時のめあてを確認する。	○取材期間を設けているため、学習計画表を基に第一次を振り返り、学習課題と今後の見通しを再確認させる。	
		リーフレットの写真を選び、写真と取材メモを合わせて伝えたいことを決めよう。		
展開 30分	取材内容の整理 構成	○取材メモの中から伝えたい内容を絞り込む。 ○取材した写真を分類し、伝えたい内容がよく伝わる写真を５枚程度まで絞りこむ。 ○リーフレットの構成を確認した後、２つ折りで写真２、３枚、４つ折りで写真５枚のいずれの構成にするかを決め、写真を再考する。 **○写真と取材メモを対応させ、取材メモの中から説明する文章に入れたい内容に傍線を引く。**	○取材メモを読みながら伝えたい内容に星印を入れさせる。 ○グループでアップとルーズで写真を分類させた後、互いに写真を見せ合い相談しながら写真を絞り込ませる。 ○教科書のリーフレットの例を見せながら、基本は２つ折りでアップとルーズ１枚ずつであること、仕事の連続性や時間による変化を伝えたい場合は、４つ折りで連続写真４枚にするとよいことを説明する。 ○取材メモの中で、対応する写真ごとに色を変えて傍線を引き、伝えたい内容を明確にさせる。	○説明したい内容に合わせてアップとルーズの写真を選び、構成を考えている。 （書） 〈構成メモの記述〉 十分満足できると判断される状況 ○自分が特に伝えたいと考える着眼点を明確に意識し、効果的な使い方を考えながら写真を選び、構成を考えている。

			○聞き漏らしたことがある場合はメモにまとめさせておき、後で一括して電話での問い合わせをさせる。	努力を要する状況への手立て
		○リーフレットの台紙に写真を仮置きし、その下に説明する内容を箇条書きにすることで構成を練り、裏表紙にインタビューの言葉や感想を入れるか白紙にするかも決める。	○２つ折りと４つ折りのリーフレットのモデルを準備しておき、必要に応じて実際に手に取って見ることができるようにしておく。	○印象に強く残っている写真を２枚選んで机上に並べさせ、取材メモを読み上げながら選んだ写真と対応する内容を探して傍線を引かせる。
		○リーフレットの台紙を相手に見せながら、自分が考えた構成を説明し合い、気付きを助言し合う。	○アップとルーズの写真を組み合わせて選んでいるかをペアで確かめさせる。	
まとめ８分	振り返り	○本時で学んだことを振り返り、ひと言感想を書く。	○個別で振り返った後、若干名に発表させることで、学びを共有させる。	
	次時の予告	○次時は、写真を解説・補足する文章を写真１枚あたり100～150字程度で書くことを確認する。	○下書き用の100字原稿用紙を提示し、分量のイメージを持たせる。	

備考：ゴシック体は本時の目標と照らし合わせてポイントとなる学習活動

11　考察

(1)　仮説①　学習過程の明確化について

書くことの課題を一人一人が具体化する過程や取材、構成を練る過程を大切にし、丁寧に指導をすることで、記述の過程で全員がすぐに書き始めることができた。

(2)　仮説②　各領域の関連について

○　既習教材である説明的な文章で学んだアップとルーズに関する知識や筆者の表現の工夫をふまえた指導を行うことで、写真の選択や構成から記述までの一連の学習が児童にとって円滑に進み、９割の児童が写真１枚あたり 100～150 字程度の説明する文章を書くことができた。

○　第３学年の既習事項を想起した上で取材準備に入ったため、インタビューをする力の定着を図ることができた。

(3)　単元を貫く言語活動について

写真と文章を対応させて説明する文章を書く力を付けるために、リーフレットの形式や文章の様式を明確に絞り込んで設定した。そのため児童は、何を説明するために、どのような方法で、どのようなリーフレットを目指すのかということを考えながら主体的に学び続けることができた。また、指導事項を明確にした言語活動の設定は、適切な指導にもつながるため、吹き出しや絵を描くことに力を注ぐようなリーフレットは皆無であった。単元の目標を実現するために、最適の言語活動を精査することは重要であると改めて確認できた。

⑵　〔本時中心型〕…小学校算数科

算数科学習指導案

第６学年○組　平成○年○月○日　第○校時（算数ルーム）　指導者：○○　○○

単元の概要

単 元 名		図形の拡大と縮小
目　　標		簡単な縮図や拡大図をよんだり、かいたりする。
評価規準	算数への関心・意欲・態度	○拡大した図形や縮小した図形に関心を持ち、調べようとしている。
	数学的な考え方	○拡大図や縮図になっているか、対応する辺の長さの比や角の大きさに着目して考えている。
	数量や図形についての技能	○対応する辺の長さや角の大きさを調べて、拡大図や縮図の性質を調べることができる。
	数量や図形についての知識・理解	○拡大図、縮図の意味や性質を理解している。
単元指導計画	＜全 10 時間＞ 第一次（２時間）　縮図と拡大図を観察し、性質をまとめる。 第二次（５時間）　縮図や拡大図をかく。（本時第４時） 第三次（２時間）　縮図を活用して長さなどを測る。 第四次（１時間）　単元の学習を振り返り、練習問題に取り組む。	

本時の学習指導について

1　本時の研究課題

図をかいて、その手順を説明することで、図の意味や特徴についての理解を確実にする学習

2　本時の目標
形が同じ図形の性質を使って、三角形の拡大図や縮図をかき、かき方を説明する。

3　学習指導のポイント
○　導入で合同な三角形のかき方を想起させ、必要な長さや角の大きさに着目して考えられるようにする。
○　説明する力を育てるために、ペア学習やグループ学習を設定する。

4　参観・研究のポイント
◇　作図を通して手順や方法をかかせることは、児童一人一人に拡大図のかき方を考えさせる手立てとして有効であったか。
◇　グループで説明し合うことで、用語を正しく使って手順よく説明する力を伸ばすことができていたか。
◇　作図する、説明することを通して、理解を確実なものにすることができていたか。

5　本時の展開（４／10）

指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価 （評価の観点） 〈評価の方法〉
学習課題の設定	○合同な三角形のかき方について、これまでに学習したことを思い出し、本時の学習課題をたしかめる。		○三角形の拡大図のかき方について、「辺」「長さ」「角」を適切に使い、合同な三角形のかき方を基にして理由を説明している。 （知識・理解） ＜ノート＞
三角形ABCの３倍の拡大図のかき方を考えて説明しよう。			
拡大図の作図	○合同な三角形のかき方を基にして、対応する辺の長さが３倍の拡大図のかき方を考えて各自で作図する。	○作図に必要な長さや角の大きさに着目して、考えさせる。	
かき方の説明	**○自分がかいた手順や方法についての説明を各自でノートに書く。**	○実際にかいた手順に即して、番号を付けて箇条書きにさせる。	十分満足できると判断される状況 ○評価規準に即して、２つ以上の違った方法を説明している。
拡大図のかき方	**○ノートに書いたことを基にグループで説明したり、質問し合ったりする。**	○グループ全員が自分の言葉で説明できるように助言する。	
	○拡大図のかき方について、学級全体で話し合い、ノートに整理する。	○児童の発言を板書で整理し、拡大図のかき方の理解を確実なものにする。	努力を要する状況への手立て ○自分でかいた手順に沿ってていねいに説明するよう助言する。
縮図のかき方	○拡大図のかき方を基にして、三角形の１／２の縮図をかいて、かき方の説明をノートに書く。	○拡大図で使った方法以外でかくよう助言する。	
振り返り	○学習を振り返って、分かったことやできるようになったことをノートに書く。	○作図、説明を中心に振り返らせる。	

板書計画・ワークシート等

6　考察

＊実施後に記述する。

５　学習指導案作成の手順と留意点

ステップ１　学習指導要領の確認

学習指導案を考える際には、まず、その学年でどのような学力を身に付けさせるのか、年間の見通しを持つために学習指導要領を確認することが大切です。単元の目標等については、学校の年間指導計画に明記されていますが、その文言を正しく理解するためにも、学習指導要領や該当教科の解説編に目を通して理解しておくことが必要です。これは、詳細な教材研究を行う前に、ぜひともしておきたいことです。

ステップ２　児童生徒の実態と課題の分析

研究主題や仮説、また、身に付けさせたい力を視点にして、児童生徒の実態を把握、分析し、課題を明らかにします。

実態把握に当たっては、ノートや作品を見直したり、評価のための補助簿を読み直すなど、具体的な資料に基づいて考察することが重要です。また、学級全体を総括的に見るだけでなく、個々の児童生徒に焦点を当て、その変容に目を向けるなど、多様な見方をしていくことが大切です。

ステップ３　単元目標・単元の評価規準の設定

単元目標と評価規準を設定するためには、学習指導要領に示された目標や内容と、児童生徒の実態を照らし合わせて、必然性のある内容にすることが重要です。年間指導計画においてその単元の目標や評価規準を確認するとともに、年間の系統性や前後の単元との関連についても押さえます。

また、この段階で、単元の中心となる学習活動をおおよそ想定しておくことも必要です。学習活動の最終段階で、児童生徒がどのようなことを、どの程度までできるようになっていることを目指すのか、具体的に思い浮かべることで、目標や評価規準に具体性と必然性を持たせることができます。

単元目標・単元の評価規準を考える手順としては、先に単元目標を簡潔な言葉で定めてから、それを観点ごとに具体化することで評価規準を考える方法と、先に児童生徒の姿を具体的に想定して評価規準を作成し、それを簡潔な文にまとめることで単元目標を定める方法があります。いずれにしても、抽象的で具体性に欠ける表現にならないようにすることが大切です。

ステップ４　単元指導計画と単元の評価計画

ここでは、児童生徒の学習活動の流れを中心に据えて考えることが最も重要です。教科によっては、学習内容のまとまりごとに「次」を構成することもありますが、その場合も、単元目標を達成するためには、どのような学習活動を通してその内容を学ばせるのかに目を向けることが必要です。機械的に「次」を設定したり、学習活動と関連のない区切りを設定したりすることがないように全体を見通した学習活動の構成を考えることが、まず必要です。

次に、各時間あるいは「次」ごとの評価計画を立てます。評価計画には、評価規準と、どの時点で、児童生徒の何をとらえて評価するのか、実際の学習活動に即した評価方法が含まれます。その際、必要以上に評価の機会を設けることで、評価資料の収集・分析に多大な時間を要することがないよう留意することが重要です。

この段階で、各時間あるいは、学習活動の節目ごとの評価規準を考えておくと、学習指導を児童生徒の活動のレベルまで具体化することができます。評価規準を設定することは、単元目標が達成できたときの児童生徒の姿をイメージすることです。そのことによって、指導のための手立てや必要な教材・教具も具体的に思い描くことができます。児童生徒が行う学習活動の流れと指導者の指導内容を考え、その結果をとらえるための評価まで考えることで、単元の指導計画を実際の指導に役立つものにすることができると言えます。

ステップ５　本時の学習指導案

単元の中で、どの時間を「本時」として取り上げるかをまず決定します。その際、なぜその時間を選んだのか、理由を明確にしておくことが必要です。理由としては、学校の研究課題との関連、指導者自身の問題意識、提案したい実践の成果など、いくつかの視点が考えられます。研究授業を通してどのようなことを検証、あるいは提案しようとしているのかを明確にし、その目的にふさわしい「本時」を決定することで、授業研究を有意義なものにすることができます。

「本時の目標」を設定する際には、単元指導計画との整合性に留意します。基本的には、単元指導計画を作成した段階で、各時間の指導内容や評価規準を考えていますので、それらを基に一文程度で簡潔に記述します。本時案を作成する段階で新たに考えたり、単元指導計画の文言とかけ離れた表現になったりしないように注意することが必要です。

「本時の展開」を考える際には、児童生徒の学習活動の流れを軸にすることが大切です。この時間に「何を教えるか。」や「どのような発問をするか。」ではなく、「どのような力を、どのような学習活動を通して身に付けさせるのか。」といった発想で、１時間の学習活動を組み立てていくようにします。

さらに、児童生徒が学習活動に主体的に取り組めるようにするために、指導者がどのよう

な手立てを取るべきかを考えます。児童生徒が学習課題をとらえたり、学習活動の見通しを持ったりすることで、児童生徒の学習への意欲を喚起したりするためには、どのような働きかけをすればよいのか、指示や助言、学習集団での学び合いなど、様々な手立てを準備しておくことが必要です。このような手立てを学習活動の流れと併せて考えておくことで、児童生徒の主体的な学習活動が引き出されて、充実した内容で１時間の授業を展開することができます。

ステップ６　本時の評価計画

１時間の授業の中の、どの場面で評価を行うのか、実際の行動計画として評価を考えておくことが大切です。そのためには、評価規準と併せて記述する〈評価方法〉を実現可能な内容で設定しなければなりません。例えば、「ノートの記述」であれば、どのような点（評価規準）に着目してノートを見るのかに加えて、どのタイミングで学級全員のノートを見るのか、そのための時間をどれぐらい見積もっておくか、といった実際的なこと、つまり〈評価の方法〉を想起して計画しておきます。「評価計画」とは、「評価」の欄に記述した評価規準等を使って、的確に評価し、確実に指導することであると言えます。授業後にノートを集めて評価するという場合もありますが、指導と評価を一体化させて進めるためには、授業の中で、確実に評価を行い、「努力を要する状況」にいる児童生徒に対してその場で有効な「手立て」を講じたいものです。

また、1 時間の授業を組み立てる際には、評価規準と合わせて「十分満足できると判断される状況」と「努力を要する状況への手立て」を考えておくことが必要です。具体的な内容や留意点については、「第３章 10 本時の展開」を参照してください。

６　学習指導案を今後に生かすために

授業を準備していく段階で練り上げ、当日には、進行表としてその役割を果たした学習指導案ですが、実施後にも有効に活用していきたいものです。

そのためには、実施後に授業の記録と指導者の考察を付け加えることと、学習指導案の修正や改善を行っておくことが必要になります。

授業の記録

授業の記録として残しておきたい物には、逐次発言記録（授業中の児童生徒及び指導者双方の発言を記録したもの）、児童生徒のノートやワークシートのコピー、児童生徒の制作物、授業で使った教材、写真、録画映像、事後研究会の記録などがあります。これらを全て揃えることには、時間と労力を要しますので、同僚の協力や研究部等の組織的な取組の有無などの条件を考慮して、可能な範囲でいくつかを選択して記録を残すことになります。校内の研究体制を活用して、組織的に取り組むことが望ましいですが、無理な場合は、児童生徒のノートやワークシートだけでも残しておくとよいでしょう。返却が必要な物は、デジタルカメラなどを使って映像データとして残しておくことも有効です。

こうして収集した記録物は、できる限り早い段階で手際よく整理しておくことが必要です。集めた記録資料の中から、児童生徒の変容や、授業の成果が確認できる物を選択し、研究会等の資料として提供できる形に整えておきます。

整理した記録物は、研究会の資料や授業のまとめとして実際に活用することが重要です。集めて残しておくだけでなく、その資料を使って考察したり、説明したりすることで、改めて授業を振り返り、成果や課題に気付くことにつながります。また、活用することで必要な資料を絞り込んだり、関連付けたりするなど、資料の整理を一層進めることができます。資料を整理し、学校として保管しておくと、共有財産となり次年度の指導に利用することができます。

指導者の考察

授業を振り返っての考察は、単元目標が達成できたか、つまり、ねらいとしていた力を児童生徒に身に付けさせることができたかを中心に行います。自分自身の振り返りや事後研究会等からは、様々な視点からの成果や課題が挙げられます。ここでは、それらの内から研究課題と単元目標に関わることに焦点化してまとめておくことが大切です。「研究発表会型」の例のように箇条書きにしてまとめる場合と、文章化しておく場合があります。研究成果を紀要にまとめる場合には、授業を振り返っての考察を文章化しておきたいものです。

考察の柱としては、次のような内容が一例として考えられます。

ア　評価の結果　…　単元もしくは本時の学習指導を終えた段階で、どれほどの児童生徒が、評価規準に至ることができたか、また、それはどのような資料や姿から判断できたのかを、できる限り客観的に分析・記述します。

イ　成果とその要因　…　評価の結果、成果と認められることは何か、児童生徒の変容（できるようになったこと、よい方向で変化したことなど）を具体的に挙げます。その上で、その成果が得られた要因はどこにあるのかを探り、学習指導案に示された学習活動の工夫や指導方法等から具体的に指摘します。

ウ　研究成果の普遍化　…　研究授業から得られた成果やその要因から、指導の在り方や方法について気付いたことや考えたことをまとめます。その際、今回の研究授業で得られた個別の事例を基に、他の単元や教科の指導にも当てはめることができるような理論や方法に一般化、普遍化して考えることが重要です。

エ　今後の展望　…　今回の学習指導をよりよくするためには、何を、どのように改善すればよいか、明確にします。「さらに努力したい。」「一層の改善を図る。」などの抽象的な表現に終わらず、研究成果をどのように生かしていくか、具体的に述べることが重要です。

文章化した考察の例　（「本時中心型」学習指導案）

授業中の評価では、25 人中 19 人がノートに、「辺」「長さ」「角」を適切に使って説明していた。ただし、その 19 人の内、合同な三角形のかき方をもとに理由が説明できていたのは、半数程度だった。そこで、理由をしっかり説明するように再度指示してからグループの活動に移ったところ、グループ活動を終えた段階で、19 人が理由を書き加えることができていた。また、当初、適切な説明が書けていなかった児童の内、3 人が評価規準を満たす記述をしていた。残りの 3 人については、個別の支援を行った結果、かき方の説明までは記述することができた。

これまで児童は、算数的活動を行った後、その手順や方法については、ある程度説明できていたが、理由を添えて説明することは少なかった。今回の授業では、グループ内での説明場面で、多くの児童が理由を添えて説明していた。説明の前に、既習事項を丁寧に確かめてからノートに記述させたことと、評価の段階で再度指示したことがその要因と考えられる。また、ノートへ記述した後でグループで説明するという二つの言語活動を設定したことで、一人一人が確実に自分の考えをまとめることにつながったと考える。

このようなことから、算数的活動を行い、それを正しい用語を使って説明する言語活動により、理解が深まるとともに知識の定着が図れるものと考える。また、個別の学習活動に入る前に、既習事項を確かめたり、活動の手順を確実に理解させることが、個々の児童の思考を充実したものに導くことになると考える。

今後は、算数的活動を通した思考の質を高めるためには、言語活動をどのように織り込んでいけばいいのか、説明に含むべき内容や手順など具体的なレベルで考えていきたい。また、児童が主体的に課題解決に向かうためにどのような手立てを講じるべきか、個別、グループ、一斉といった学習形態の組み合わせ方を中心に工夫していきたい。

学習指導案の修正・改善

事後研究会や指導者自身の振り返りを基に、学習指導案を修正・改善しておきます。学習指導案のどこをどのように修正するのか、具体的に明らかにしておくことは、指導者自身の授業力の向上につながります。また、学校として授業研究に取り組んだ場合には、修正された学習指導案が研究の成果として残り、次年度の授業改善に役立ちます。紙資料としての学習指導案に加除修正を朱書きしておくことでも十分ですが、修正したものを電子媒体として保管しておくことで、学校の共有財産とすることができます。授業研究の成果を生かした学習指導案の修正をもって、一連の授業研究を終えることになります。

7　その他の参考様式例

(1)　特別支援学校学習指導案　様式例

○○科学習指導案

京都府立△△支援学校
指導者名　　(T1)
指導者名　　(T2)

1　日時
2　対象　　(学級名、グループ名、学年、児童生徒数)
3　場所
4　題材(教材)名
5　児童生徒の実態

設定している教科にかかわる児童生徒の実態について記入する。ここから児童生徒個々の課題や学級全体としての課題が出てくることから、題材(教材)設定の理由へと結びついていく。

6　題材(教材)設定の理由

7　題材(教材)の目標

児童生徒の実態に照らし合わせた学級全体、グループ全体の学習目標について記入。

8　指導計画

	指導計画	時間	指導内容
第1次			
第2次			
第3次			

9　本時の目標

児童生徒	目　　標
A	
B	
C	
D	
E	
F	

児童生徒ごとに設定した目標を記入。2～3項目程度が望ましい。

10　展開

時間	学習内容		指導上の留意点		ツール・準備物
	主たる活動		T1	T2	

例えば、「ゲームを通して社会性を育てる」という授業であれば、社会性に視点を当てた活動をこの欄に記入するとわかりやすい。

T1：中心指導としての動き方を記入。
T2：サブ指導としての動き方を記入。中心指導者に集中させる、学習しやすい雰囲気作り、個々の児童生徒の活動への支援等役割は多い。そのため、指導者間で丁寧な打ち合わせを行うことが大切。

11　評価

児童生徒	評　価　項　目
A	
B	
C	
D	
E	
F	

設定した個々の目標に照らし合わせたものになるが、達成状況により、学習の仕方に工夫を加えたり、また目標の設定を変えることになる。

12　配置図

（教室内の教材、指導者、児童生徒の活動位置）

物や人の位置だけでなく、動き方についても図示しておく。

(2)　道徳学習指導案　様式例

道徳学習指導案
学校名
指導者名

1　日　時　○年○月○日(　)　　第○校時　(○：○～○：○)
2　学　級　第○学年○組　○名
3　主題名　○○○○(内容項目　○－(　))
4　資料名　「○○○○」　(○○○○より)
5　主題設定の理由
(1) ねらいとする価値
(2) 児童生徒の実態
(3) 資料について
ねらいや指導内容についての指導者の基本的な考え方、それと関連する児童生徒の実態と教師の願い、使用する資料の特質や取り上げた意図及び児童生徒の実態とかかわらせた指導の方策など
6　本時のねらい
7　本時の展開

過程	学習活動	主な発問 予想される児童生徒の反応	指導上の留意点	資料・ 評価等
導入	1		・	
	ねらいとする価値への方向付け ねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚に向けての動機付けをする。 主題に対する児童生徒の興味・関心を高め、学習への意欲を喚起する。			
展開	2 3	○基本発問 ・予想される児童生徒の反応 ◎(中心発問) ・	・ ・	
	ねらいとする価値に対する自覚を深める。 読ませる、視聴させる、説話するなどの方法によって資料を提示し、話合いなどによってねらいとする価値について自覚を深めさせる。			
	4	・	・	
終末	5	○	・	
	しめくくりの段階であり、教師が感動した体験を語ったり、児童生徒に感想を述べさせたりして、本時の授業が児童生徒一人一人の心に残るような指導方法を工夫し、今後の発展につなぐ。			

8　板書計画

質の高い学力を育成する

学習指導案ハンドブック

平成 24 年 3 月
編集・発行　京都府総合教育センター
京都市伏見区桃山毛利長門西町
TEL　０７５－６１２－３２６６